２０１１年１１月２６日

ジョイント分科会　カテゴリA

　　　道の駅

　　　～進化する道の駅～

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　拓殖大学　　岡田ゼミ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　榎本飛鳥　　齋藤大将

1. はじめに
2. 道の駅とは
3. 「道の駅とみうら・枇杷倶楽部」の概要・特徴・事例
4. 考察・問題
5. まとめ

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　１

1. はじめに

　 皆さんは道の駅という施設を聞いたことがあるだろうか？私たちは「道の駅グランプリ２０００」という大会があったことを知り、道の駅とはどのようなものなのかという疑問を持った。そこで私、榎本飛鳥の地元で千葉県の南房総地域の富浦町にある、「道の駅とみうら・枇杷倶楽部」という道の駅にスポットを当てた。この「とみうら・枇杷倶楽部」は「道の駅グランプリ２０００」で最優秀賞を受賞している。最優秀賞を受賞したこの道の駅が、地域にどのような影響を与えているのか、これからの課題について考えてみた。

1. 道の駅とは

　（1）機能・・・レストランやトイレなどの休憩施設と野菜の直売所などの地域復興施設が一体になった道路施設。

（2）数・・・２０１１年８月２５日現在では、全国に９７７ヶ所の道の駅が国土交通省に登録されている。

（3）目的・・・地域によって、個性豊かなにぎわいのある空間があることにより、地域の核が形成され、活力ある地域づくりや道を介した地域連携が促進されるなどの効果も期待されている。

（4）登録要件・・・２４時間利用可能なトイレの設置、２０台以上が止められる駐車場の設置、地域の特産物の情報や周辺施設の情報などの提供ができることなど。

（5）特徴・・・一般的には、地域で採れる農産物や海産物を販売する直売所型の道の駅が多く、また、道の駅は人口が密集していない市町村に設置している特徴がある。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　２

３．　「道の駅とみうら・枇杷倶楽部」の概要・特徴・事例

　　①概要

　・管理運営主体　南房総市観光プロモーション課と株式会社とみうらの第３セクター

　・道の駅登録日　平成５年（１９９３年）４月２２日　（全国１０３か所）　（千葉県では最初に登録された道の駅）

　・駐車場台数　　乗用車　６９台（身体障害者向け４台）／大型車１５台

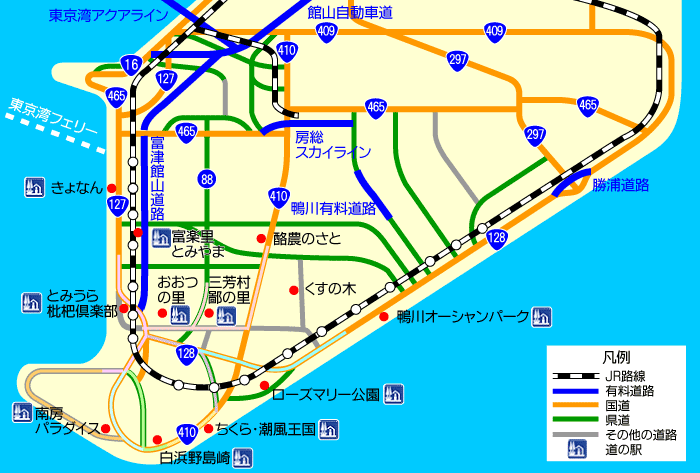
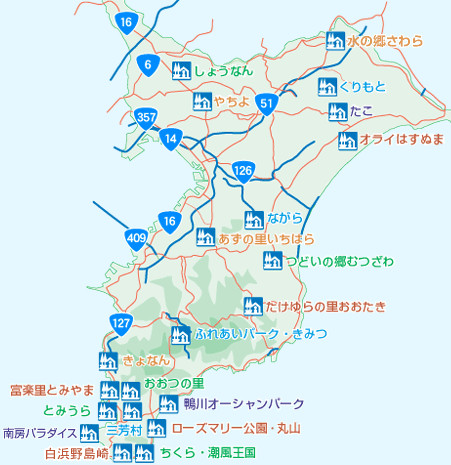
　・従業員数　　　正社員９名　パート７０名

・開設日　　　　平成５年（１９９３年）１１月２７日

　・営業時間　　　午前９時～午後６時

　・休業日　　　　不定休（年間１５日程度　繁忙期　無休）

　・アクセス　　　国道１２７号線、館山自動車道、富浦ICより富浦方面へ車で約１　　　　　分、JR内房線富浦駅より車で約５分、徒歩約１５分



南房総周辺の地図　　　　　　　　　　　　　　　千葉県の道の駅分布

　　　　　　　　　　　　　　　（国土交通省　関東地方整備局　千葉国道事務所HP）

・なぜ道の駅を設置したのか？

　　 元々は、道の駅を設置する予定ではなかった。ここには町の施設である産業振興　センターを建造する予定だったのだが、平成５年にこの施設を道の駅として登録したいとの提案があり、道の駅として登録された。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　3

②特徴

　　（1）特産品

　　　びわの販売

　　　びわを加工した商品

　　（2）野菜の直売をしていない

　　　地元の商工会の方々との競合を回避するため

　　③事例

　　（1）取り組み

　　　「一括受発注システム」

　　　　観光会社と提携することにより、南房総地域に観光客を誘致するという仕組み

　　（2）全国道の駅グランプリ

　　　平成１２年に行われた大会

　　　全国５５１駅ある道の駅の中の最優秀賞を受賞

・主催

　　　建設省　現国土交通省

・目的

　　　 電車には駅、高速道路にはパーキングエリアやサービスエリアがあるように、道の駅は一般道路の「たまり」として、人々に憩いとやすらぎを与え、道路情報や地域の文化・歴史・名所・物産品などを紹介する情報発信の場として、また、地域と利用者の交流の場として発展してきた。

　　　 このようなことから、今後の道の駅の整備のあり方や施設管理および利用者サービスなどの運営活動の図り、利用者や地域からどのように評価されているかを調査・検証して審査を行い、優れた道の駅を表彰することを目的とした。

・授賞理由

　 「房総の突端にあたる温暖な土地柄で、花もたくさんあり、花に囲まれた小さな道の駅。ここの道の駅は次々に新しいアイデアを出している。つまり道の駅はできたままの状態ではなく、日々進歩していくものだという精神があり、そこを評価の対象とした。」

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　審査委員長　　横島庄司　　高崎経済大学教授より

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　４

４.　考察・問題

（１）株式会社とみうら（売上実績）

　　　　　　　　　　　　　　　（パワーポイント参照）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（株式会社とみうら資料）

・道の駅がオープンした平成５年から徐々に売上が伸びている。

・その後は６億円前後の売上を保っている。

・びわ商品などの販売売上は高いが、観光会社のツアーなどによる観光売上が伸びていない。

（２）「道の駅」設置による富浦町　観光客平準化への効果

　　　　　　　　　　　　　　　（パワーポイント参照）

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（株式会社とみうら資料）

・道の駅がオープンする平成５年より前は７月から９月にかけて夏の時期にしか観光客を集めることができなかった。

・道の駅がオープンした平成５年から徐々に秋や冬の時期にも観光客を集めることに成功している。

さらに、「道の駅とみうら」は年間、約７０万人の観光客誘致に成功し、地域波及効果で南房総エリアに４億円以上の効果があるというデータがある。

　　　　　　　　　　　　　　　　　５

アンケートによる問題　　　（アンケートは毎年７月～１２月に実施）

（1）駐車場の整備

　　近年、高齢者や女性ドライバーが増加しており、駐車場が少ない、駐車スペースが狭いといった意見があった

　　繁忙期の休日や祭日では、駐車場が埋まっており、新しく来たお客様を返さなければなくなる。

　　（改善案）

　　駐車場を増設すれば良いのだが、そのためには資金面や土地管理など、また新たな問題ともなる。

（2）ゴミの有無

　　ゴミ箱の場所がわからないという意見が多数あった

　　ここの道の駅では、トイレにしかゴミ箱を設置してないのでトイレがゴミだらけで汚くなってしまう。リピーターの方々には認知されているが、初めて来たお客様には認知されていない。

　　（改善案）

　　ゴミ箱をもっと設置した方が良いと思った。他にも原則的にゴミは持ち帰ってもらうようにしたいと考える。

（3）他の道の駅でも観光会社と提携

　　以前は、ここの道の駅が観光客を誘致するということで、観光会社と提携してツアーなどを組んでいた事業だが、近年、テレビの旅番組などで道の駅をツアーのプランで行くことが多くなった。

　　（改善案）

　　観光会社だけではなく、個人客にもHPなどを通じてツアーを提供する。そのことで、団体客だけではなく、個人客の誘致にも貢献できると考える。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　６

５.　まとめ

　 道の駅の認知度、設置数は年々増加傾向にある。さらに、それぞれの地域によってはスタンプラリーを行っている道の駅があり、道の駅の間で連携を図るものでもある。地域の活性化ということで、施設の維持、観光客や売り上げを伸ばすなどの経営面で安定させることにとどまっているが、地域住民の集いの場や地域活性化の場所としてもさらなる発展を期待したい。

　 地域の活性化は誰のためにあるのだろうか。それは、その地域全体のためである。「道の駅とみうら・枇杷倶楽部」は観光型の道の駅ではあるが、観光客向けの情報発信ばかりではなく、この地域では過疎化で住民が減少していて難しいのも分かるがもう少し地域住民にも目を向けても良いだろう。地域住民からアンケートを取り、今後の道の駅として望むものは何かなどといった声を取り入れても良いと思う。

　 この道の駅の駅長の方の言葉で、「この道の駅が南房総地域の玄関口となり、この道の駅が主役ではなく、その背景に南房総地域が活気づいてくれれば幸い。」という精神がここまでやってきたというものがすごく伝わった。

　 私の目から見ても、この道の駅を訪れたお客様の声に耳を傾けてみると、「また来てみよう」「都会には無い安らげる空間や景色が良かった」など大変満足しておられる方々がいたことがわかった。このことから、また訪れる観光客が増加し、地域への波及効果も増加していくのではと考える。

参考文献

国土交通省道路局HP　<http://www.mlit.go.jp/road/station/road-station.html>

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　最終閲覧日　H２３年１１月４日

国土交通省　関東地方整備局　千葉国道事務所　最終閲覧日　H２３年１１月７日

<http://www.ktr.mlit.go.jp/chiba/roadi-area/riyou/eki.htm>

道の駅グランプリ結果

<http://www.mboso-etoko.jp/top/biwakurabu/nihon1/page0100gran_2.htm>

取材協力　「道の駅とみうら・枇杷倶楽部」　取締役業務部長　鈴木賢二さん

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　７